

アジア研究教育ユニット 令和2年度教育研究報告書

事業課題名	多文化共学短期〔派遣〕留学プログラム タイ・チュラローンコーン大学スプリングスクール
代表者名	国際高等教育院 河合淳子 学際融合教育研究推進センター 西島薫
事業概要 (600字程度)	<p>多文化共学短期留学プログラムは、京都大学アジア研究教育ユニット（KUASU）と国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センターが合同で実施してきたプログラムである。多文化共学短期留学プログラムは、アジアと日本の相互理解の促進と互いに共通の課題の発見・解決を目指すことを目的としたプログラムである。本プログラムは例年、2週間の間、チュラローンコーン大学との交流協定に基づき、チュラローンコーン大学に本学学生を派遣し対面にて実施してきた。本年度は新型コロナウイルス拡大の影響のため、オンラインで短期派遣プログラムを実施した。本プログラム開始前には留学生によるタイ語の事前授業をオンラインでおこなった。本プログラムの参加学生はチュラローンコーン大学の担当教員の全面的な協力の下で、タイ語学習、タイの歴史、文化や社会についての講義、現地学生との共同学習に参加した。</p>
成果の概要 (800字程度)	<p>本プログラムには5名（文学部1名、経営管理大学院1名、農学部1名、農学研究科1名、アジア・アフリカ地域研究研究科1名）の本学学生が参加した。事前語学学習では、留学生による発音、自己紹介や簡単な会話練習などタイ語の基本的な事項に関する授業を実施し、本学学生はチュラローンコーン大学が提供するタイ語授業の準備をおこなった。</p> <p>チュラローンコーン大学が提供するタイ語授業は、おもにプログラム期間の午前中に実施された。参加学生はタイ語講師との双方向的なコミュニケーションの中で実践的なタイ語を学習した。プログラムの語学学習を通じて、参加学生たちは短期間でタイ語の基礎を効率的に学習することができた。またプログラム期間の午後は、参加学生たちはタイの歴史、文化や社会に関する講義に参加した。チュラローンコーン大学の教員から直接学ぶことで、参加学生たちはタイの実情をより深く理解できただけでなく、活発な意見交換をおこなうことができた。</p> <p>さらに本学学生はチュラローンコーン大学の学生との共同学習もおこなった。参加学生たちは特定のテーマに関して、現地学生とのディスカッションをおこなった。チュラローンコーン大学の学生と交流することで、本学学生は自文化を比較の観点から見つめ直す機会を得ることが出来た。新型コロナ拡大という特殊な状況下で、同世代の学生たちがタイと日本の社会を比較検討したことは、それぞれの置かれた状況を他者の視点からとらえ直すことができたという点で、重要な機会だった。</p> <p>対面式のプログラムのようにタイ語を実際に運用する機会を設けることが今後のオンラインプログラムの課題であるものの、充実した国際交流プログラムを実施することで、本学学生とチュラローンコーン大学学生の相互理解を促進することができたことは、大きな成果であると言える。</p>